



写真等無断転載禁止

子どもが自然とゆたかにかかわるために 大人がしなければならない事を考える その1 ～農作は、自然破壊を基盤にして成り立っている～

子どもと自然学会 船橋市 岩田 好宏

子どもが自然とゆたかにかかわる事ができるために、大人は何をしなければならないか。この問いに対して、私にはしっかりとした答えがまだできていません。それにもかかわらず表題のようなことを書くのは、むしろ考えてきたことを述べ、みなさんと対話をしながら答えを出せたらいいなあという思いが強くあるからです。そこで、その糸口として人間と自然との関係についてのもっとも基本的な問題である農作*について考えましたことを述べることにします。

*：農耕という語の言い換え。農の中には焼き畑農作のように耕さない作物栽培があり、日本語辞典の中には農耕の語説明を“耕すこと”としか書いてないものがあります。そこでこの語をつかうことにしました。

人間の自然との関係の歴史は、農作を始めた前後をさかいに大きく転換したとみております。この頃から人間は自然な自然を破壊するようになりました。農地は、それまであった自然な自然を破壊して造成されました。そして人間が常にはたらきかけないと、農地は消滅します。しかしだからといって農作生活を否定することはできません。むしろなくてはならない生業であり、産業である農業の基盤となっている人間と自然との関係だと思っています。次の表は、環境庁が報告している日本列島の植生の自然度別土地面積を表したものです。農作地が日本列島の総面積の70%近くを占めています。この分だけ日本列島にあった自然な自然が消えました。

表 日本全国の植生の自然度と野生区分

植生の自然度	区分	区分の基準	全国の面積比(%)	野生区分			
10	自然草原	高山ハイデ、風衝草原、自然草原など	1.1	野生世界	19.1		
9	自然林	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集など	18				
8	二次林(自然林に近いもの)	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林など	5.4	過渡期の生物世界 5.4			
7	二次林	クレーミズナラ群集、クヌギ・コナラ群落など	18.7	人間世界	74		
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹などの植林地	25				
5	二次草原(背の高い草原)	ササ群落、ススキ群落など	1.5			農作地	69.8
4	二次草原(背の低い草原)	シバ群落など	1.8				
3	農耕地(樹園地)	果樹園、桑畑、茶園、苗圃など	1.8				
2	農耕地(水田・畑)	畑地、水田など	21				
1	市街地・造成地	市街地、造成地など	4.2	都市	4.2		

*：二次林、二次草原であっても、田畑や森林・草原が放置されて遷移が進行すれば、「過渡期の生物世界」である

しかし農作は、人間が出現した時身についた生活のしかたを大きく発展させるきっかけを与えてくれました。また子どもの自然活動にとって重要な位置を占めています。このようなことを事実として受け止めながら、他方で自然な自然を保存するというこ

とが一つの根幹となっている「自然とゆたかにかかわる」をどう実現してゆけばよいか、ここに子どもの自然とのかかわりのあり方を考える重要な課題があると思います。

南房総のアカゲザルとニホンザルの絶滅危機

香取市 濱中 修

私は、『ちば環境情報センターニュースレター』第214号（2015年5月8日発行）に「南房総市白浜地区（以下、「白浜」）に、野生化したアカゲザルがすんでいます」と書きました。この記事について、補足をします。

誰がアカゲザルを白浜に放したか

私は、この記事に「最初に白浜で野生のアカゲザルが目撃されたのは、1970年代半ばのことです。当時、私は、Rh式血液型の研究のために飼育していたアカゲザルを白浜で野に放したようだ」と伝えている……」と書きました。アカゲザルは、1970年代の初めまで、日本国内で医学研究用にたくさん飼われていました。Rh式血液型のメカニズムを解明するためです。この研究は、1973年に終了します。その後、日本で飼われていたアカゲザルは、減少していきます。私は、そのことを記憶に留めている最後の年代になりました。私には、次代に伝えていく責任があると感じています。

千葉県は「房総半島南部に生息しているアカゲザルは、ペットあるいは動物園、観光施設等で飼育していた個体が、何らかの理由で放逐され、あるいは脱走したものと考えられる」（注）としています。この一文は、誰が白浜にアカゲザルを放したの

かまったくわからないと正直に告白しているだけです。白浜のアカゲザルが、ペットであった可能性はほとんどありません。動物園・観光施設はどうか。南房総には、昔も今もずっとアカゲザルを飼育していた動物園や観光施設がありません。

動物園の猿山には、サルがいます。たいがいニホンザルです。関東地方には、猿山でアカゲザルを飼育している動物園が少しだけあります。井の頭自然文化園と東武動物公園です。もちろん、これらの動物園は飼育動物をきちんと管理していますから、逃げ出して野生化したりしてはいません。

タイワンザルの野生化と駆除

動物園や観光施設などから放されたり逃げ出したりして問題になった外来種のサルがいます。タイワンザルです。

和歌山市には、市が管理する和歌山城公園動物園がありますが、1950年代には、これとは別の私立動物園がありました。そこからタイワンザルが逃げ出します。その後、このタイワンザルとニホンザルが交雑した雑種のサルが見られるようになりました。和歌山県は2002年（平成14年）から本格的にタイワンザルと雑種のサルの駆除を行い、2012年以降はタイワンザルが見られなくなりました。2017年（平成29年）末には、タイワンザル根絶完了を宣言します。

1971年（昭和46年）、下北半島の一角にタイワンザルを飼育する観光牧場ができました。この施設は、すぐに経営難におちいり、1975年に閉鎖されますが、施設設置者は、その後もタイワンザルの放し飼いを続けました。タイワンザルの雄は、ニホンザルの雄と同じように、若者に育つと生まれた群れを離れ、単独で行動するようになります。

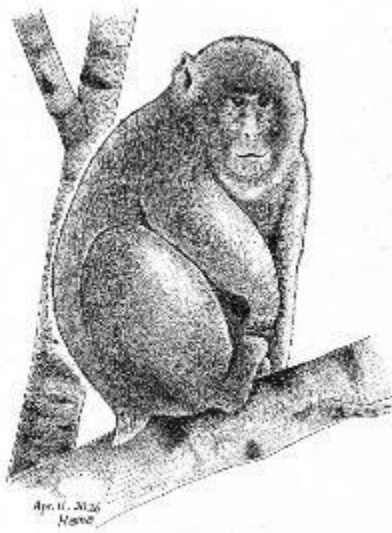
放し飼いの群れから離れたタイワンザルの雄が、もともとここに棲んでいるニホンザルの雌と出会って交雑する心配がありました。下北半島のニホンザルは、「北限のサル」として天然記念物になっています。

当時は、飼育下にある動物を強制的に処分するのがとても難しい時代でした。下北半島で放し飼いにされていたタイワンザルは、2004年になってやっと全頭捕獲されました。外来生物の飼育栽培を規制する外来生物法が制定された年です。

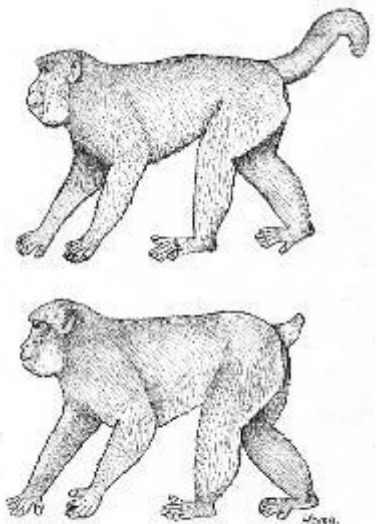
動物の種間交雑

違う種の動物は交雑しないというのが、日本では常識になっています。そうではありません。哺乳類の中には、近縁な種どうしが交雑して雑種をつくり、雑種も生殖して子孫をつくることのできるグループがいくつもあります。アカゲザル、タイワンザル、ニホンザルは、みんなマカク属に分類されます。マカク属のサルは、種間交雑をします。雑種のサルも、生殖能力があり、子孫をつくることができます。

アカゲザル、タイワンザル、ニホンザルは、海によって隔離されていて、もともとの分布域が重なっ



冬のニホンザル



アカゲザル（上）とニホンザル（下）

ていません。だから、自然界では交雑しません。人間が本来の生息地ではないところに放したために交雑が起きています。

南房総のアカゲザルとニホンザルの絶滅危惧

房総半島のニホンザルは、2020年（令和2年）に環境省レッドリストの「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されました。個体数が減ったからではありません。ニホンザルとアカゲザルの交雑が進んで、雑種のサルばかりになってしまうことは、ニホンザルの絶滅を意味します。

ニホンザルは、日本の気候風土に順応した種です。短いしっぽ、長い冬毛など、厳しい冬を越すのに適した体の特徴をもっています。アカゲザルとは違う固有の特徴もっているのです。

アカゲザルは今も房総半島南部に棲んでいます。その数は、現在1,000頭を超えているようです。これを根絶することは、急を要する課題なのです。

（注）「第3次千葉県アカゲザル防除実施計画（案）」（インターネットで公開されている）から引用

2026年下大和田ニホンアカガエル卵塊調査結果

今年のニホンアカガエルの卵塊調査結果をまとめてみました。卵塊総数は87個と昨年の69個から激増しました。調査期間は2月15日から3月15日の1か月間でしたので、その後に増加した分は入っていませんが、あっても少数かと考えます。また、見落としや重複もあると思いますが、傾向はつかめたかと思えます。

2006年から2026年までの卵塊数調査結果を下図に示しました。2006年の558個から変動しながら増

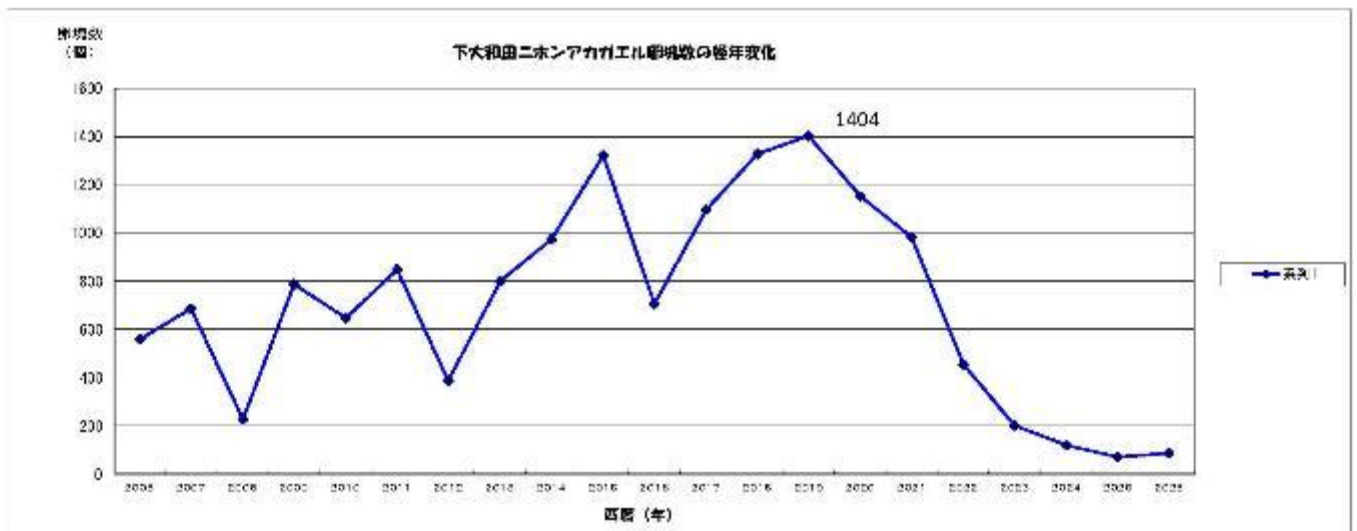
NPO 法人 ちば環境情報センター

加していきましたが、2019年の1404個をピークに減少し続けています。2019年から卵塊数が急激に減少した原因は分かりませんが、放棄田の増加やアライグマなどによる成体や卵塊の食害などが考えられます。

今後とも調査は続けていきたいと思えますので、何か情報があったらちば環境情報センターまでご連絡ください。

下大和田ニホンアカガエル卵塊数の経年変化(2006～2026年)

調査年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
卵塊数(個)	558	685	224	782	442	646	838	600	972	1325	1303	1065	1329	1404	1151	984	473	201	112	49	87



2022年：暴雨により調査した47個を消滅
 2023年：干ばつにより減少した112個を消滅
 2024年：暴雨により調査した112個を消滅

新浜の話 99 ～しんはま収穫祭～

きっかけが何だったか、もう記憶があいまいです。丸浜川と水の浄化を中心に活動していたころ、7月末の浦安の花火大会と日を合わせて、芝生でバーベキューをやっていました。

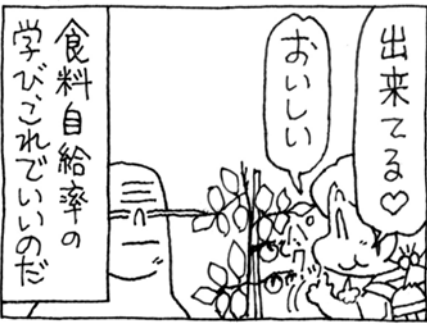
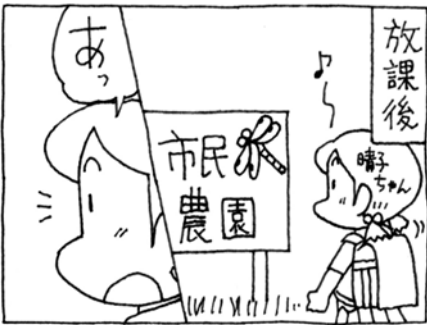
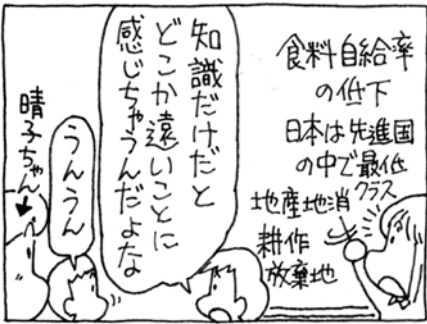
もともとは、廃油からプリンせっけんを作って、その効果を見るため、油污れのひどいものを洗って

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

みたらどうか、だったらバーベキュー！ という発想だったかと。友の会の内部の催しでしたが、日本の代表的な湿地環境である水田を保護区の中で作ってみようという試みを始めた時、収穫の時期に一般の方々が参加できるお祭りをやろうか、という話になった気がします。

スロマン ③

作：アサ
おたけ



頭で考える環境問題と体で考える(感じる)環境問題は違う、情報センター小西由希子代表の名言。頭と体、両方のバランスが大切かと。〈作者談〉

はじめは、町田安男さんのお友達、さきたま古墳群史料館の館長をされていた小川さんから、古代米の苗をいただいていた。紫米などは生米を噛んでも甘く、スズメに大人気。とうとう種籾すらとれずに途絶えてしまいました。長いノギのある赤米や、白米に少し混ぜて炊くだけでももちもちしたお赤飯になる黒米、ものすごく粘りがあり、ついてお餅にしてから3日くらいも柔らかいままの緑米など、今も保護区の水田で作られています。

田植え(その前に傷病鳥舎から出るわらやおがくずで作った堆肥をすきこみ、水を張り、代掻きをしておく)や稲刈りは、大人気の行事になりました。田んぼは日本人の魂のふるさと、大人も子供も夢中になります。刈り取った稲は稲架にかけ(時にはもとの観察舎内の3階の手すりにかけて干し、心地よい匂いを楽しんだことも)、収穫祭当日は足踏み式脱穀機と唐箕(どちらも町田さんが農家で使わなくなったものをいただいできて提供された)が大活躍。

一回だけでしたが、地元の南行徳小学校から、学校で保存しているこうした農機具を使った授業を依頼されたこともあります。とれた古代米を持ち込んで、脱穀やふるいわけをやり、たしか精米は一升瓶を使って搗いたのではなかったかしら。昔の行徳ではどこでも行われていたこうした作業、見たこともなかった子供さんばかりか、私たちにとっても貴重な体験でした。

脱穀した稲束を逆向きにして、葉などを脱穀機ですき落とす作業を「すぐる」といいます。すぐったワラで、浦安の後藤隆さん・初子さんご夫妻とお知り合いの方々が、ワラ縄の緋い方やわらぞうりの作り方を教えてくださいました。わらぞうり作りはいつも定員オーバーの大人気。年末のしめ飾り作りは今も行われている人気行事です。

堆肥の中から生えた冬瓜は、腰かけにできるほどの大きさで、切り分けてお配りしました。定年退職された富田さんの後任として再任用職員で入られた故神野孝四郎さんは、長年小学校の用務員さんをされておられ、日の出のご町内の自治会長さんでした。神野さんの発案で何年か、自治会から道具をお借りしてお餅つきをやったこともあります。保健所の指導が厳しくなり、不特定多数を対象とした餅つきは残念ながら終了。今ではキッチンカーやプロのお店が食べ物を出店されています。

芸達者なスタッフの河村久美さんが、マンドリン仲間とミニ・コンサートをやったり、交友関係が広い堀江聡美さんのお友達にカワウの着ぐるみを作っていただいて(カワオ・カワエ。今も活躍)愛嬌をふりまいたり。その時々スタッフや周囲の方々のアイデアや働きで、しんはま収穫祭はゲームや展示、時には歌や踊りも交えた参加型の催しになりました。

漁協さんや近くの小原農園さん、福田海苔店さん、レンコンの家などのご参加で、地産地消の性格も残しつつ、収穫祭は形を変えながら、秋ごとの「ほごくらぶフェス」として続いています。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年 6月号(第346号)の発送を 6月 8日(月) 10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

＜総会のご案内＞
日 時：2026年5月30日(土) 13:30~15:30
会 場：千葉市民活動支援センター談話室
※総会資料は正会員に別便で送付します。正会員以外でもオブザーバーとして参加できます。事前にご連絡ください。

編集後記：千葉市緑区下大和田町開発計画に係る環境影響評価準備書に対し市民・団体から20件の意見書が出されました。それに対し事業者からの見解書が提出されました。この見解書に対して環境の保全の見地から意見を述べることができます(5/16 公聴会)が、これは千葉市では初めての開催だそうです。この議事録は審査会に示され、諮問された市長意見の議論がなされます。私たちも申出をおこなう予定ですが、審査会委員に直接公述できる自治体もあるようです。 mud-skipper ♀

☆第 243(2)回 小山町 YPP「田植えの準備」 4月18日(土) 晴れ

前回に続いてあかがえる田んぼのここ数年稲作されていなかった部分の草取りをしました。密生したマコモの根を引き抜くのは大変な作業でしたが心強い参加者の皆さんのおかげでなんとか終わることが出来ました。

参加者7名(大人7名) 報告:柳町健治

☆第 243(3)回 小山町 YPP「田植えの準備」 4月26日(日) 晴れ

あかがえる田んぼの休耕部分を田んぼに戻す作業はこれで3回目。最後に残ったところは昨年1年だけ米づくりをしなかっただけなのですが、侵入したマコモが四方八方に強い根をしっかりと張っていて抜くのが大変。それでも初めての方を含めてたくさんの方が参加して下さったおかげで、きれいに草を取り除くことができました。子どもたちも一緒に作業したり、生きものさがしをしたり、楽しい作業でした。

参加者10名(大人8名、小学生2名) 報告:高山邦明

【谷津田・季節のたより】 2026年 4月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

4/2 小雨、ヒクイナ鳴く。 4/5 ウグイス、ヒクイナ、シジュウカラのさえずり。ガビチョウも鳴く。シュレーゲルアオガエル盛んに鳴く。谷津田は賑やかだった。 4/11 ホソミイトトンボのペア田んぼで産卵。ツマキチョウが飛んでいた。 4/12 シュレーゲルアオガエルの卵塊2個確認。 4/19 ニホンカワトンボ今年初確認。田んぼでホソミオツネトンボ連結して飛ぶ。ツバメが田の水を飛びながらすくっていた。ヒバカリをつかまえて観察した。イノシシが2頭、舗装道路で餌をあさっていた。 4/26 キンラン多数咲く。

<小山町> 報告 高山邦明

4/3 ニホンアマガエルの新しい卵塊があった。 4/5 コナラやクヌギが開花、旅立ち前のアオジがさえずる。 4/6 ヒヨドリの20-30羽の群れが訪れる、シオヤトンボの羽化が始まる。 4/7 ウワミズザクラが咲く。 4/14 サシバの声を聞く。 4/15 キビタキがさえずる。 4/17 シオヤトンボが産卵。 4/20 旅立ち前のシロハラ、渡りの途中で羽を休めたセンダイムシクイのさえずりを聞く。 4/22 今季のツグミ終認、ホオノキが開花、カラスアゲハが田んぼに吸水に訪れる。 4/24 カワトンボの姿を見る。 4/25 代かきが終わった田んぼにオシドリのカップルが飛来、クサシギも3羽、セグロセキレイのカップルは子ども5羽を連れていた。 4/26 今季のアオジ終認。 4/30 オオヨシキリが飛来、さっそく大声でさえずる。

【イベントのお知らせ】主 催: NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先: 小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日 時: 2026年 5月17日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容: 田うえをした緑米田んぼの整備をします。森の手入れも行います。

持ち物: 長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費: 無料

・森の手入れ

日 時: 2026年 5月24日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容: 森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物: 長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費: 無料

・第318回 下大和田YPP「田の草取り」

日 時: 2026年 6月 6日(土) 9時45分~12時 (雨天の時は10日に実施)

内 容: コナギなど中心に田んぼの草取りをします。地味ですがたいせつな作業です。

持ち物: 長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費: 無料

・第317回 観察会とゴミ拾い

日 時: 2026年 6月 7日(日) 9時45分~12時 雨天決行

内 容: 仔ガエルが畦を跳ねている頃。命あふれる季節です。ホトトギスの声も聴けるでしょう。

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費: 100円

<小山町谷津田> 連絡先: 高山 E-mail: ceic.ypp.oyama@gmail.com

▼第244回 小山町 YPP「はたはったんの田植え」

初めて育てるうるち米の“はたはったん”の田植えをします。

日 時: 2026年 5月10日(日) 9時~12時 ☆小雨決行

場 所: 小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物: 田んぼ用長靴・防水手袋・飲み物

▼第245回 小山町 YPP「古代米の田植えと草取り」

古代米の赤米、黒米、緑米の田植えをします。また、最初に植えた田んぼの草取りもします。

日 時: 2026年 5月24日(日) 9時~12時 ☆小雨決行

場 所: 小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物: 田んぼ用長靴・防水手袋・飲み物

☆どなたでもお気軽に参加いただけます。初参加も歓迎です!参加のご希望、お問い合わせは、上記メールでご連絡下さい。

